

# 常念通り

白板地区公民館  
館報編集委員会  
☎(35) 7740

## 慶春 白板地区町会連合会

会長 矢野 良



上高地で撮影

あけましておめでとうござ  
います。

白板地区の皆様には、お健  
やかに、希望に満ちた新年を  
お迎えのこととお慶び申し上  
げます。また、日頃より白板  
地区町会活動には御理解御協  
力いただき誠にありがとうございます。  
心から御礼申し上げます。

白板地区の皆様の永い間の  
念願がかない白板地区公民館  
が地域の中心部、城西町に昨  
年四月十日竣工開館されまし  
た。

以来、地区公民館として、  
多くのサークル活動、各種団  
体による講座や趣味の会、子  
供達のお楽しみ会等に多くの  
事業が実施されて来ました。  
非常に多くの皆様に利用さ  
れています。これからは、こ  
の白板地区公民館が、地域住  
民の皆様の生涯学習の拠点と



しめ縄づくり



いけ花講座

して、多くの人に利用され、  
地域づくりの発信地となり白  
板地区が、人と人とのつなが  
りが深い、活気のある地区に  
なつてほしいと思います。  
結びに、本年が地区皆様に  
とりまして健康で幸多き最良  
の年になります様に、心から  
お祈り申し上げます。

## 新春連載

### 駒町公民館

館長 筒井秀子

駒町と宮崎町の共有の公民館  
です。両町会での活動は、白板  
地区公民館の協力で「木曽路研  
修視察」で中山道妻籠宿日帰り  
バス視察に楽しく行き親睦を深  
める事が出来ました。

防災訓練を3町会(宮崎町、駒  
町、城西町)に白板地区公民館協  
賛、合同で消火器訓練、煙道体験、  
防水訓練、災害医療に関する説  
明、講演会、防災ずきん作りを  
行い、多くの方に参加頂き地域  
の親睦を図りました。私達駒町  
は28世帯で一番小さい町会です。  
お楽しみ会・ボーリング大会に  
は参加しています。少子高齢化  
になり一層の絆を深め、助け合  
い、支え合いが自然にできる町  
会作りを目指したいと思ひます。

### 蟻ヶ崎西公民館

館長 蜂谷 泉

私達の公民館は、平成7年12  
月に新設され、昨年でちよう  
ど20年の時を刻みました。現在  
蟻ヶ崎西町会は、その当時から  
すれば減少してはいるものの  
636世帯あり、白板地区では  
最も大所帯となっております。  
平成9年に先人達の残してくれ  
た「福祉の町づくり宣言」蟻ヶ  
崎西町会が私達の家庭です。道

町内公民館長さん達に熱い  
思いを語っていただきました

路は家の廊下で、各家はそれぞ  
れの部屋です」をモットーとし  
て活動しております。町の三天  
行事としての敬老会、体育祭、  
文化祭をはじめ、三九郎、青山  
様ぼんぼん、ふれあい会食会、  
昨年始まった、いきいきサロン  
等々。現在超少子高齢化が急速  
に進む中、住民が寄り添い助け  
合う事が最重要であると実感し  
ております。本年も更なる充実  
を目指していきます。

### 放光寺公民館

館長 小林紀子

平成26年3月15日緊張の面持  
ちで公民館長の任を引き継ぎ任  
務遂行の強い思いでスタートし  
ました。以来、新任館長の教育  
プログラムを始め様々な行事に  
真摯な気持ちで取り組んできま  
した。任期が終了する今思うこ  
とは、公民館は何のためにある  
のか、という基本的な疑問です。  
時代のニーズは地域の安全安心  
です。災害時に我が公民館は何  
をしてくれるのか、町会として  
犯罪対策は万全なのか、この事  
を追求して公民館のあり方を考  
えていけば現在行われている活  
動の活性化にも自ずからつな  
がって行くはず。市長なら  
びに担当者の方々に公民館の位  
置付けを真剣に考えて頂きたい  
と強く願ひます。

## 人権視察研修会

町内公民館長会 筒井秀子

白板地区町内公民館長会、人権視  
察研修会に12月11日(金)参加し、「富  
山県立イタイイタイ病資料館」へ  
行って参りました。「イタイイタイ  
病」は、富山県の神通川流域で起き  
た、日本の四大公害病の一つで、患  
者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶ  
ことからこの名が付いたといわれて  
います。この病気は、大正時代頃か  
ら発生し、神岡鉱山から排出された  
カドミニウムが神通川の水や流域を  
汚染し、この川水や汚染された農地  
に実った米などを通じて体内に入る  
ことにより引き起こされました。昭  
和の始め頃までは、多くの家庭でそ  
の水を炊事や洗濯ばかりでなく飲み  
水として使っていました。

圧倒的に女性が多く発症、35才か  
ら更年期頃にかけて、特に出産経験  
者に多く発症したそうです。骨と筋  
肉が痛むこの病気は、一度かかると  
治らない。奇病として流域住民に  
恐れられていました。  
語り部講話で家族の苦勞を聞き、  
この公害をくり返さないようにと思  
いました。

汚染農地対策で  
は、土壌の汚染を取  
り除く復元工事が実  
施され、長年にわた  
る工事の結果、かつ  
ての実に豊かで安全  
な農地を取り戻せた  
とのことです。  
環境と健康の大切  
さを改めて痛感しま  
した。



館内での説明



語り部講話

# クリスマス会



ケーキづくり



やまぼうしの演奏

十二月二十日(日) 午後、白板地区公民館で、丸ノ内スポーツクラブ「クリスマス会」が、参加者四十一名で開催されました。

こども達は、思いの飾り付けをしながらケーキ作りをしました。その後、やまぼうしの演奏を聴きながら、最後の曲では、こども達が、紙テープの入ったコップを振ると、滝の様にテープが流れ落ち楽しいひと時となりました。

その後、ケーキを食べたり、ゲーム(吹き矢)をして、クリスマス会を楽しみました。

## 白板地区公民館

## 白板南町会

十二月十九日(土) 町会初めの試みとして、町内忘年会と子供クリスマス会が合同で行われ、フランス・イギリスからの参加者四人も含め、五十人参加の国際色豊かなクリスマス忘年会を白板南公民館で行いました。

新しく造成されたミニ団地に引っ越してきた一家の参入で、一挙に六人の子供が増え、小泉町会長は「新企画が可能になった」と喜んでいました。

町内にはスウェーデンに本部のある簡易宿泊施設の「バックパッカー」があり、経営者のブライアンさんが故郷アイルランドのクリスマスマスの話を映像で説明しました。宿泊客四人も参加し、ハワイトクリスマススを歌い、子供たちには町会からのクリスマスプレゼントがあり、町民から寄せられた様々な品物でビンゴ大会をし、クリスマス会を楽しみました。



ブライアンさんのお話



## 食改講座

食生活改善推進協議会  
会長 大久保 堯代



新装になった白板地区公民館調理室で、第三回料理教室が開かれました。寒天料理、凍り豆腐料理に続いて今回のテーマは、生涯骨太料理です。最初に栄養士の「ロコモ予防は 骨と筋肉」の話でバランスの取れた食事をして、蛋白質を多く含む食品を積極的に取る事の大切さを教えていただきました。メニューは「タラときのこのチーズホイル焼き」「蓮根と牛蒡のミルクきんぴら」「レモンヨーグルトカスタードクリーム」です。地域の方々が、四テーブルに分かれ協力して調理し、乳製品たっぷりの三品の出来上がり。簡単で、美味しいと大好評でした。四月からは、会員も11人に増えましたので昨年以上に、地域の皆さんへの伝達活動に力を発揮したいと話合っています。



## 防災訓練

十一月二十九日(日)、駒町・宮崎町・城西町で避難訓練を行い、その後白板地区公民館で防災訓練を行いました。

公民館では、放水体験、煙道体験、消火器訓練をしたり、医師による「大地震に備える(医療救護所)」の講演と日赤奉仕団による「手ぬいの防災ずきん」作りをしました。

防災ずきんは、フェイスタオル三枚で作ることができ、又、ずきんの中に常備薬、

十一月二十九日(日)、駒町・宮崎町・城西町で避難訓練を行い、その後白板地区公民館で防災訓練を行いました。

公民館では、放水体験、煙道体験、消火器訓練をしたり、医師による「大地震に備える(医療救護所)」の講演と日赤奉仕団による「手ぬいの防災ずきん」作りをしました。

防災ずきんは、フェイスタオル三枚で作ることができ、又、ずきんの中に常備薬、



医師による講演



完成した手ぬいの防災ずきん

## 白板探検隊 24



### 生安寺石仏

昭和三十七年に現在地に移転し、江戸時代は本町にあり、それ以前は松本城東北角にあったという。松本平最古の石仏といわれ、地藏清水の地名の由来となつたが中世の捧荘関連施設が同地にあったことを示すとも。捧

荘とは、鎌倉時代初期の「吾妻鏡」文治二年(一一八六)三月の条に、八条院領として見えるのが初見。京都仁和寺の蓮華心院に捧荘から絹障子三枚を納入するよう命じられ、鎌倉幕府の有力御家人であった大内惟義が応じている。この地藏が捧荘に関連する施設の付属物であるとするれば、捧荘は、それまでの古代の郷とは違って、現在の松本城周辺の、低湿地帯を開発の対象とした荘園ということができ、古代の勢力とは異なつた新たな勢力が松本平の中心部に進出してきたことを示している。